

2020 こうち総文〈郷土芸能部門〉総評

和太鼓部門審査員 岩 切 邦 光

昨年の全国高等学校総合文化祭高知大会に於いては新型コロナウイルス感染防止策によりリモート開催となりました。

3年生にとっては、最後の大会であり1・2年生も日頃の成果を発表出来る場所として毎日鍛錬を重ねて来られたことと思います。

今回の評価は、あくまでも1審査員としての意見であり、今後のチーム編成又は曲作りの参考になればと思い評価させていただきます。

近年の太鼓演奏を見ていると太鼓を打つという事を念頭において演奏されるチームが多くなってきた事に喜びを感じます。

和太鼓部門は、演劇やミュージカルの舞台ではなく、和太鼓部門として深く捉えて頂き、曲の構成などを考えて頂きたいと思います。

せっかくレベルの高い演奏をしても、歌やダンス・踊りの時間が長いと和太鼓部門では無くなります。

また、長々と篠笛を使うことは太鼓の演出においてプラスにもなり、マイナスに捉えられる場合もありますのでしっかりと練習を重ねて演奏する事をお勧めします。

また、過去の大会において成績の良かった演奏を参考にされるのも良いのですが、そのままのコピーではなく、団体の個性や地域性等も生かす様な演奏を期待します。

太鼓の打法ですが、地域独特の打ち方があり大変良いと思いますが音量を調節し、ゆっくりとした雰囲気のある演奏を行うと心溢れる気持ちの良い、和を表現する状況が現れると思います。

数多くの太鼓を並べて演奏するチームが多くなりましたが、ひとつひとつの音色・使うタイミング等を十分に理解して使用する事をお勧めします。

和太鼓部門は、太鼓に向かう素直な態度を評価しますので基本(リズム打ち込み)を忠実に日々の練習に励んでください。

和歌山大会を期待致します。